

【登場人物】

フジモト

モリ

ムロタ

舞台は新宿シアター・ミラクルの楽屋。

出入り口を起点として点対称になるようにレイアウトされている。

舞台真ん中には丸いテーブル。端にはコートかけがある。

テーブルの上にはホールのアップルパイ。

その他のものはすべてマイムで行う。

テーブルの周りにフジモトとモリがいる。

ムロタはトイレにあたるスペースにいる。(箱か何か出して座っておく)

モニターからは先ほどのフジタの落語の様子が漏れ聞こえてくる。

フジモト、モリ、台本を読んでいる。

フジモト ……。

モリ ……。

フジモト ……台詞……

モリ ……え？

フジモト ……覚えました？モリさん。

モリ あー、まあ……っていうか、うん。まあ、一応。

フジモト マジっすか。

モリ うん。え、覚えてないの？

フジモト いや、たぶん大丈夫だとは思いますが……

モリ あー。ふじさん台詞多い、もんね。

フジモト はい……多い、多いっていうか……

モリ 多いっていうか、長い……

フジモト そうっすね。

モリ うん……いや、頑張るとしか言えないんだけど。

フジモト まあ、そうですね……

モリ ……

フジモト てかムロタさん、大丈夫っすかね。

モリ ん？んー……ああ……どう……だろう……

フジモト 結構飲んでましたよね。

モリ そう、だね。私が見た限りでは結構、飲んでたね。

フジモト え、吐いてないですよ？まさか。

モリ それはさすがに、たぶん……。 (急に不安になって) え、大丈夫かな。ムロ

タさん？ムロタさん？

トイレを流す音が聞こえ、ムロタが現れる。

モリ あ、よかった生きてた。

ムロタ ……ん？え？なに、なんか、え、なに、ん？

モリ いや……

フジモト ムロタさん飲み過ぎで潰れてるんじゃないかって今話してて……

ムロタ ああ……いや、全然、大丈夫でしょ、これくらい。

モリ んー、なら、いいんですけど。

ムロタ 大丈夫でしょ。全然、そんな俺飲んでないよ。

フジモト そう、か？

ムロタ うん、え？大丈夫でしょ。

フジモト 結構、結構飲まされてませんでした？

ムロタ いやいや、全然。これくらいは。

モリ とりあえず生きててよかったです。

間。ムロタ、手を洗いに行くなど。

フジモト ムロタさん台詞大丈夫ですか？

ムロタ 台詞、そうね。まあ、なんとかなるでしょ。

フジモト はは、強。

ムロタ だって、いつもの、あれでしょ？いつもの、感じじゃん。

モリ まあ、そうですけど……

ムロタ 最悪、最悪、ほら、なんか、適当に喋るときゃ、いいわけでしょ？

フジモト まあ、最悪……

モリ ああ……いや、だめでしょ。

ムロタ だめ？だめか。

モリ ダメでしょ。一応、だって……

ムロタ だめか。

モリ ダメですよ。一応台本あるじゃないですか。

フジモト まあ、そうですね……

ムロタ あーそうかあ……

モリ まあ、確かにいつもの、あれではありますけど……

ムロタ ねえ……なんとかなると、思うんだけどなあ……

フジモト 楽屋ですしね。

ムロタ んー……

間。

ムロタ これは……な、なに？

モリ まあ、アツプルパイ、ですかね。

ムロタ なに、差し入れ？

モリ なんですかね？

フジモト 誰宛ですか？

ムロタ 俺、じゃないな。

モリ 私も違いますね。

フジモト 俺でもないっすね。……フジタさんですかね？

モリ あー……誕生日……

ムロタ ああ……

モリ プレゼントのな……

ムロタ まあ、一番可能性はあるんじゃない？

フジモト ですかね。

モリ なんか、メモはいつてましたよ。

フジモト メモですか？

モリ うん……なんか……

ムロタ 「食べるな」

フジモト え？

ムロタ なんか、食べるなって。

フジモト (笑) そんな、そんなフリあります？

ムロタ ねえ、なんか、ねえ。

モリ 雑なフリが……

ムロタ 逆にここまで来ると食べなきゃいけないんじゃないかみたいな……

フジモト あー……

モリ いや、でもさすがに……

ムロタ だめか、さすがに。

モリ ええ……まだタイセイさんのだつて決まったわけじゃないですし……

フジモト いや、でも、他誰かいますかね。

モリ いやわかんないよ？ゲストの誰か、っていう、説も、別に百パーセント消

えたわけじゃないですからね。

ムロタ そんなんいつたらだつて、百パーセント言い切れることなんかなんにもな

いでしょ。

モリ まあ、それはまあ、はい。

間。

フジモト あーっ。

モリ え、なに……

フジモト いや……

モリ なに、どうしたの急に……

フジモト いや、おわ、終わるなあつて。

ムロタ (笑) そりゃ終わるでしょ。

フジモト 終わるなあつて思つて。

モリ うん、いや終わるよ。もう、あと何分だ、四十分くらいか。

ムロタ 始まつたらそりゃ終わるでしょ。

フジモト いや、うん……

モリ なんか、いや、でもなんか、わかりますよ。

ムロタ まあねえ……

フジモト ……いや、なんか、別に寂しいとかじゃなくって、単純につかれた。

ムロタ あー。そうね。

フジモト 二十七時間。

モリ 二十七時間。

ムロタ 終わるね。

フジモト そうっすね……。

モリ ……。

ムロタ なんかに、どう……どうでした？

モリ ……何がですか？

ムロタ なんだ、終わるにあたって。

モリ どうでした、どうでしたって……

フジモト (笑)

ムロタ また雑な……

モリ 別に無理に話題広げなくてもいいんですよ？

ムロタ いや無理じゃないよ。なんか、あるかなあっていう。

イベント内の何かを話す。できればまんべんなく。  
あんまり内輪っぽくならない感じで。  
なんもなければ早々に切り上げてもいい。

ムロタ ……。

フジモト ……。

モリ ……。

ムロタ つかれたな。

フジモト 結局(笑)

ムロタ いや、そうだよ。結局、結局そうなんだよな。つかれた。うん。つかれた、なあ……。

モリ そうですね。まあ、楽しかったですけどね。

フジモト いやそれはもう、楽しかった、し、楽しんでもらえてたらしいなあ。

ムロタ いやあ……楽しんで……もらえてたでしょ。

モリ 自信がすごい。

ムロタ いや、それはだって、ねえ。こんだけ楽しかったんだから、楽しんでもらえてたって、信じるしかないでしょ。そりゃ。

フジモト そうっすね。

モリ それは、まあそうですね。

ムロタ どうですか？楽しんでいただけました？

間。

モリ え、それ誰にきいてるんですか。

ムロタ そりゃ、こう、ここにいる、この……

モリ え？

ムロタ お客様的な人にだよ。

フジモト え、怖。

モリ なにいつてるんですか？

ムロタ いるでしょ？ほら、ここにほらそういう……

フジモト 百歩譲って居たとしても直接聞くことじゃない。

ムロタ そうか。そうか？

モリ そう、どうですかね。

ムロタ いいじゃない、別に、だって、ねえ。直接聞いたって……

モリ まあ人によると思いますけど。

ムロタ 直接聞かなきゃわかんないじゃない。ねえ？

フジモト だから架空の客席に話しかけるのをやめろ。

ムロタ そういうのは、だって、ちゃんと言葉にしていかないと。

フジモト あとで誰か個人的にきいてくださいよ。

モリ それは間違いない。

ムロタ んー……。

間。

モリ まだ時間あるかな。

フジモト あー、まあ、大丈夫じゃないですかね。

モリ おっ、そうか。(立ち上がる)

ムロタ どっかいく?

モリ いや、ちょっと、向こう覗いてこようかなと。

ムロタ ああ……

モリ いきます?

ムロタ 俺……は、ちょっと、うん、いいかな。

モリ そうですか。ふじさんは……

フジモト あー俺……そうっすね……

モリ あでも、台詞あれだったら……

フジモト そうっすね、ちょっと、やめときます。

モリ うん。じゃあ……行ってこようかな。

モリ退場。

間。

フジモト あー……

ムロタ ……。

フジモト 腹減ったなあ……

ムロタ そうねえ……

フジモト あー、なんか買ってくればよかった。

ムロタ ……。

フジモト ……。

ムロタ まあ、ね、ほら。

フジモト え、なんですか。

ムロタ こう、ね。食っちゃうっていう、ね、手もあるよっていう。

フジモト ああ……

ムロタ 食っちゃえば、いいんじゃないかな。

フジモト いやあ……

ムロタ ダメか。

フジモト 誰のかもわからないのはちょっと……

ムロタ え、でも、そんなの、だって、放置しておくほうが悪いでしょ。

フジモト それは、まあ、そう、かもしれないですけど。

ムロタ だって、ねえ。こんなところに、名前も書いてないし、食べてくれて言っ

てるようなもんじゃない?

フジモト いや、でも……ってか冷蔵庫入れた方がよくないっすかね。

ムロタ あー、そうか。そうだよな。

フジモト さすがに常温は……大丈夫っすかね?

ムロタ どう、だろうね。

フジモト あ、でもあれか、酒が……

ムロタ 酒?

フジモト あの、打ち上げ用のやつが……

ムロタ ああ……

フジモト 一杯だった気がする。(見て) あーやっぱそうっすね。

ムロタ 入らない？

フジモト つぼいですね。

ムロタ んー……まあでも……

フジモト 大丈夫か。

ムロタ うん、いいんじゃない？もうあとちょっとだし。

フジモト ですかね。

ムロタ それか、もう、やっぱり食っちゃうか。

フジモト あー、いや……

ムロタ まあ、無理にとは、無理にとは言わない、けども……

フジモト いや、な、まあ(笑)

ムロタ ……なんか眠くなってきたな。

フジモト 急(笑)

ムロタ え、眠くなってこない？

フジモト いや、まあ、二十七時間。

ムロタ 二十七時間ね。いやなんか、楽屋ってさ、なんか、落ち着いちゃうんだよなあ。

フジモト あーでも、なんか、わかりますね。

ムロタ なんかこう、もやもやっところ……うー……なんか、落ち着いちゃうんだよなあ。

フジモト 落ち着いちゃうっていうのが逆に、落ち着かない、ことありません？

ムロタ あー。

フジモト ないか。

ムロタ いや、まあ、でも、ある、かな。

フジモト ああ……

ムロタ なんか、こう、スツとこう、ね。抜ける瞬間ってのがあって……なんか……  
…楽だよなあ。

フジモト 楽、楽っすか？

ムロタ んー。楽、楽っていつちゃうとまたちよつと違う感じもするけど、でも、ね。ほら、楽屋、楽屋だけに(笑)

フジモト え？

ムロタ あの、感じであの、楽って書くから、別にそういう意味じゃないと思うんだけど。楽屋だけに。

フジモト ……ああ。

ムロタ なんかねー。楽、でいちゃいかなあとは、思うんだけどねえ、どうもこの……

フジモト ……

ムロタ うん。ちよつとこう、びしつと、やっていかんと、いかなあつていう、また猪口才なだけで。

フジモト ……

間。

ムロタ 楽屋って、なんで楽屋っていう、のかね。

フジモト あー、なんでですかね。

ムロタ なんだらう。楽、楽団、的なこと？なの？

フジモト ですかね。

ムロタ んー……

フジモト ……

ムロタ ……

フジモト 調べればすぐ出てきそうなもんですけど。

ムロタ え？いや、いいよ。別にそんな、どうでもいいよ。

フジモト な、すぐじゃないですかそんなもん。

ムロタ いや、いいよそんな、そこまで気になってるわけじゃない。

フジモト ああ、なら別にいいですけど……（外に出る準備をしている）

ムロタ 向こう行く？

フジモト いや、ちょっと、ケバブ買ってきます。

ムロタ ああ、いいね、ケバブ。いいね。

フジモト 要ります？

ムロタ いや、いらぬ。

フジモト え、要らないんすか？

ムロタ うん、いらぬ。

フジモト じゃあ自分で食いついたんだ。

ムロタ 別に、なんとなくだよ。

フジモト なんなんだ。モリさん戻ってきたらいつといてください。

ムロタ うん。え、でもすぐでしょ。

フジモト まあ、すぐ下なんで。

ムロタ はーい。

フジモト じゃ、いつてきます。

フジモト 去る。

ムロタ、携帯をいじる。

ムロタ、急に思い立って気合を入れたりする。

やああって、モリが戻ってくる。

モリ あれ、ふじさんは……

ムロタ あ、なんか、ケバブ……

モリ ケバブ。

ムロタ ケバブ、を、買いに行った。

モリ ああ、あの下の処ですか？

ムロタ じゃない？たぶん。

モリ まあ、他にあるかわかんないですけど。

ムロタ ちょっと歩いたところもあるよ。

モリ あ、そうなんですか？

ムロタ うん。

モリ いや、でも、わざわざ下にもあるのに歩いていかぬでしょ。

ムロタ それもそうか。

モリ ……なんか結構人いましたよ。

ムロタ ん？あ、向こう？

モリ はい。

ムロタ ね。なんか、そんな感じはしてた。

モリ 緊張します？

ムロタ んー、まあ、んー。どうだろう。

モリ 結構リラックスしてそうですけど。

ムロタ んー、でも、緊張……そうねえ、してるといえはしてるし、してないとい

えはしてない……

モリ ああ……なんだそれどういうことだ。

ムロタ んー……え、モリちゃんは？

モリ え、なにがですか？

ムロタ 緊張してる？

モリ あー、まあ、でも、そりゃ緊張しますよ。そりゃ。

ムロタ そっか。

モリ はい。そりゃだって、なんでも緊張はしますよ。

ムロタ そうだよねえ。

モリ はい。

ムロタ ……。

モリ ……。

ムロタ ……モリちゃんさ。

モリ あ、はい。

ムロタ なんか、なんだろう。演劇、やってる、じゃない？

モリ まあ、はい、やってますね、はい。

ムロタ それは、なに…？どういふ…？なんだ、なんで？

モリ え、なにそれどういふことですか？

ムロタ いや、なんか…？ちよつと気になっただけなんだけど…

モリ えーなんだろう、そんな急にいわれても…

ムロタ そうか、そうだよね。

モリ え、どうしたんですか？

ムロタ ー？

モリ なにか、あつたんですか？

ムロタ いや、全然別に、なにかあつたとかじゃ、ないんだけど。

モリ はい。

ムロタ うー…：なんだろうな、このままでいいのかなって…：いや、違うな。

モリ え、なんですかどういふことですか？

ムロタ え、どう？実際。

モリ どうって何がですか？

ムロタ この、これさ。(台本)

モリ はい、え、あのこれって…？

ムロタ だからこの、この台本…

モリ あ、これですか？この…？これですか？

ムロタ ん？え、どれ？

モリ だからこの、この今やってるやつですか？

ムロタ ん？うん。ん？いや、うん、そう。そうそうそれ。

モリ はあ…：え、どう、とは。

ムロタ どう思う？正直なところ。

モリ えー、どう…：なんか、なんですかね。難しい、難しいって…

ムロタ うんうん。

モリ やっぱり、いつもの自分の、しゃべり方、じゃないですか。いつものしゃべり方にすぐく、近い、言葉で、書かれてるから…

ムロタ ー。

モリ それがなんか逆に、すごい難しいなって、思いますね。

ムロタ そうねー。それは確かに、そうだね。

モリ はい。…：え、ムロタさんはどう思うんですか？

ムロタ ー、いや、なんていうか、ん…：いや、確かにすぐく難しいし、いや

なんかでも、難しいんだけど、こうやりがいもあるし、やってて楽しいし、おもしろ

いなあって、思う、んだけど、思うんだけど、なんか、ん…：こういう、こういう

ことでいいのかな、っていうか、なんか、違うな。いや…：ごめんなんでもない。

モリ ええー。

ムロタ うん、ごめんね。なんか、よくわかんなくなって来ちゃったな。

モリ そうですか？

ムロタ うん…：なんか…：あー、いや、なんか…：いかな。いかなぞ。という

…。

モリ はあ、そのいかなというの…

ムロタ あのー、俺が、俺がついていうか…：いや、もういいよ、こういうなんか、

真面目な話みたいなのは…

フジモトがケバブを食べながら帰ってくる。もう半分くらいない。

モリ あ、帰ってきた。

ムロタ うわ、出た、ケバブ。

フジモト なんかもめっちゃ混んでました。

ムロタ あ、そう。

フジモト っていうか暑いですね……(暑くなかったら変えて)

ムロタ うん。もう夏になるよ。

モリ 蒸し暑いですよ。

ムロタ ……あー……よくない、よくないぞ。うん……(立ち上がる)

モリ え、どこいくんですか。

ムロタ ちょっと、この……うん、ちょっと、酒買ってくるわ。

フジモト え、マジっすか。

ムロタ うんちょっとこう、うん。酒買ってくるわ。

ムロタ、出て行く。

フジモト マジか、すごいな。

モリ 気合いな……

フジモト まあこういうイベントだからいいですけどね。

モリ まあ……

間。

モリ (急に笑う)

フジモト ……え、なんですか。

モリ いや、なんか……

フジモト どうしたんですか？

モリ なんか……いや……なんでアツプルバイなのかなあと思って……

フジモト ああ……いや……食べたかったんじゃないですか？

モリ いや、そりゃそうだろうけど……なんか意味があるのかなって思っ

フジモト 意味？意味ですか？

モリ うん。

フジモト 意味……はないんじゃないですかね？

モリ そうか。

フジモト いやわかんないですけど……。

モリ そうだよ。

フジモト はい……。

モリ ……。

フジモト いやだってそんな、生きてて意味とかなくないですか？

モリ そうか。

フジモト 俺はそう思いますけど。

モリ ー……いや、なんか……どうなんだろう。

フジモト どう？

モリ あって欲しいような気もするし……

フジモト ああ……

モリ なくてもいいような気もするなあと思って。

フジモト 意味ですか？

モリ なんか、私、芝居の台詞みたいなこと言ってるな。

フジモト そうですね。

モリ うん。

ムロタ戻ってくる。

ムロタ ほんとに人たくさんいるね。

モリ ですよね。

ムロタ なんか急に緊張してきたな。

モリ だから言ったじゃないですか……

ムロタ うん……まあでもね、全然居ないよりはね……

モリ そうですね。

フジモト ……。

間。

フジモト いや、でも、ほら。ぶっちゃけ、全部台本通りじゃないですか。

モリ ……ん？なにが？

フジモト いやさっきの話……

モリ ああ……

ムロタ ん？なに、何の話？

モリ いや、なんでアップルパイなのかなって……

ムロタ え？あ、これ？

モリ はい。

フジモト っていうか、なんか、意味なんか無いんじゃないかみたいなの……

ムロタ なにそれどういうこと？

フジモト いや……んーと……

ムロタ え？アップルパイに？意味が？……ってこと？

フジモト ああ、まあそうっすね……

ムロタ ん……？

モリ いや、なんか、動物園……

ムロタ ……ん？？

モリ 動物園って、あるじゃないですか。

フジモト ありますね。

モリ 動物園の、動物って、こう、なんだ、正直居るだけっていうか、なんもしないし、それこそ意味？みたいなのって、外側にいる人間が勝手に設定したり、命を大事に、みたいなのと、形態展示とか行動展示とかいろいろありますけど、でも、そんな動物にとっては関係ない、わけじゃないですか。

フジモト まあ、そうっすね。

モリ でも、じゃあそれでいいのかっていう話は別じゃないですか。

フジモト あー……

ムロタ え、どういうこと？

モリ 実際動物がどう思ってるか、っていうのは別として、動物園にコンセプトがないのは問題じゃないですか。

フジモト いや、問題かどうかはわかんないですけど……

モリ ムロタさんがさっきあの、おっしゃってたようなことってそういうことなのかなって、あの……

ムロタ あー……

フジモト さっき話してたことって言うのは……

ムロタ なんか、なんだ、こういうことでもいいのかなって、この、これがさ。

フジモト ああ……いやでも……

モリ 我々が気にすることじゃないのは、わかりますけど。

フジモト まあでも、不安っちゃ不安ですよ。

モリ 不安、いや、不安って言うともまたちよつと違う気もするんだけど……  
ムロタ んー……

短い間。

ムロタ なんで楽屋なのか、とかね。

フジモト ああ……

モリ はい。

フジモト なんでアップルパイとか。

モリ いや別に、答えが知りたいとかじゃないですけど。

ムロタ いや、でもやっぱり、そこまで考えてないんじゃないの？

フジモト そう思いますよね。

モリ そうだとは思うんだよ。思うんだけどさ。いや、でもそうか、それはそうか。  
フジモト んー……

ムロタ フジモト君もさっき言ってたけど、ぶっちゃけもう、全部台本通り、だから、今此処で、俺等がいろいろごちゃごちゃ考えてもしょうが無い、のかもしれないよね。

フジモト とうか考えてるんですかね？

ムロタ どういうこと？

フジモト 今此処でごちゃごちゃ考えてるのって、俺ら、なんですかね？

モリ あーいや、でもそれは……

フジモト だって全部台本に書いてあるわけだから……

モリ それはでも、んー……どうなんだ。

ムロタ 俺誰だ、みたいなこと？

フジモト まあ、そういうことですかね？

モリ そういうことなのか？っていうかこの一連の話はちゃんと伝わってるのか？

ムロタ どうですか？ちゃんと伝わってますか？

フジモト いや架空の客席やめてくださいよ。

モリ なんだこれ。何の話してたかわかんなくなってきたな。

ムロタ んー……

フジモト ……んー、いやそんなにいろいろ考える必要はないと思うんだけどなあ。

モリ そう？

フジモト いや、だって、ここ楽屋じゃないですか。

ムロタ そう、だね。

モリ 無理に話広げなくてもいいってこと？

フジモト っていうか……んー……

ムロタ ……正解を、求める必要は無い……？

モリ そういうこと？

フジモト ……

間。

フジモト なんか、俺思うんですけど……なんだろう、あの、楽屋、楽屋ってすごく、落ち着くっていうか、落ち着いちゃうんだけど、やっぱり……落ち着いちゃダメな瞬間って、あると思うんですよね。そりゃずっと落ち着かないのは、やっぱり、つかれちゃうし、よくない、よくないっていうか、単純にいやだなあって思うこともあるけど、いや、違うな、ダメってことは無い、ダメってことは無いけど、やっぱり、役者、じゃないですか、役者、いや全然まだまだだし、役者って名乗るの、怖いっていうか

なんだろう、おこがましい、けど……でも役者だから、舞台に乗ってこそというか、舞台があつて、楽屋があつて、っていう、楽屋の楽っていう字は、別に「楽」って意味じゃない、ですし、そういう風にとらえてるわけじゃない、ですけど、だから、だから？でも？やっぱり、例えば此処が楽園だとしたら、アダムとイブとしての役者ってのがいて、舞台の上は、だから楽園を追われて、流れ着いた先で、でもそこが、俺等の主戦場じゃないですか。河原乞食っていうか……だからそこで、お客様にみていた

間。

だいて、それでやつと、許されるんだと思うんですよ。役者が血を流して、それで、おもしろいって思っていたら、それでやつと罪、罪っていうか、まあ今は罪って言い方あえてしますけど、罪が洗い流される、って、思う、んですよ。演劇やるっていうのは、それだけでやつぱり、ちょっと変っていうか、普通に生きてる人たちのほうが、何倍もすごいし、俺等はやっぱり、そうできなかった、側の人間なんですよ。

モリ よし。

もちろんそうじゃない人もいるとは思んですけど、でも少なくとも俺はそれで、だから、そうできなかった、楽園を追われた俺たちが、ゴルゴダの丘で磔にされて、血を流して、できることなら、俺等だけじゃなくて、みんなの、もつとたくさんひとのために、演劇やりたいし、それでいろんな人が、救われたらいいなって、思うんですよ。何言ってるんだ俺。

ムロタ え、なに。

ムロタ ……うん。

モリ 食べませんか？私は食べます。

モリ ……うん。

ムロタ 俺も食べようかな。

フジモト ……。

モリ 衣装着ちゃったけど！

ムロタ ……。

ムロタ いやあ、大丈夫でしょ。汚さなきやいいでしょ。

フジモト ……。

フジモト 上からパーカーとか着たら……

ムロタ ……。

モリ そう、ね。

フジモト ……。

ムロタ そうね、なんか、んー、やっぱり進んで墮落していかなきゃいけない、っていう、ことは、思ったりするかなあ。

フジモト ……。

フジモト あ、終わった。

ムロタ ……。

ムロタ うお、やべえ。

モリ ……。

モリ まあいわんとしてることはわかりますよ。

フジモト ……。

フジモト ……。

三人、慌ただしく楽屋を出て行く。

少し経ってフジタが楽屋に戻ってくる。  
食べかけのアップルパイを見る。

フジタ  
あっ……！

照明C.O.  
閉幕。